

林永樂外交部長閣下、
李嘉進亜東関係協会会長閣下、
ご列席の皆様

本日は、天皇陛下の８０歳の誕生日をお祝いいただくために、かくも大勢の皆様におこしいただき、心から感謝申し上げます。

日本と台湾の関係は、様々な分野において良好かつ大きな進展を遂げています。特に、日台間の長年の懸念であった「日台漁業取決め」を締結することができたことは大変嬉しく思います。

経済分野でも、今年１１月には５本の取決め、覚書に署名し、同月、第３８回日台貿易経済会議が東京で開催された際には、「金融監督分野における相互協力のための了解覚書」という重要な覚書も署名するなど、日台関係が幅広い分野で着実に進展しています。

また、オープンスカイを受けて人的往来も益々増加しており、特に、本年は日台間の往来は初めて３００万を突破し、史上最高記録を大きく更新することは間違いありません。

文化交流分野では、４月に宝塚歌劇団の台湾初公演が行われ、１１月には日台野球親善試合も開催されました。これらは、台湾の方々の熱烈的な支持の下で大盛況に終わり、日台の「絆」の深さを改めて認識いたしました。また、来年には国立故宮博物院日本展が開催され、故宮の極めて貴重な文物を初めて日本でも鑑賞できるようになる予定です。今後、２０２０年オリンピック・パラリンピックの東京開催に向けて、日台間の文化交流と相互理解がさらに深まるものと期待しています。

さらに将来の日台関係を一層強化するためには、次代を担う若い人材の育成が不可欠です。当協会が近年とくに重点を置いているのが、台湾における日本研究の促進、そして青少年交流の促進です。青少年交流については、安倍総理の提唱による大規模青少年交流事業「JENESYS2.0」により、今年は台湾から約３００人の高校生、大学生、大学院生を日本へお招きしました。これらのプログラムに参加した台湾の優れた人材が各分野で日台の架け橋となってくれることを願っています。

私は、昨年のこのレセプションの場でも、良好な日台関係は、日台双方の人々の暖かい感謝に支えられた特別に大切な関係であると申し上げました。

思えば、東日本を直撃した大震災の発生からすでに2年9ヶ月が経過しましたが、震災直後から現在に至るまで台湾の皆様からは格別の心暖まる御支援を頂いています。これは正に、日台双方の人々の心と心の交流を端的に示すものとして、日本国民は忘れることがないでしょう。例えば、11月に台湾において日台間で野球の試合が行われた際にも、日本の選手が球場等において、台湾の皆様へ心からの感謝を示す場面が見られました。

日本と台湾の間には、このように、人と人との強い心のつながりがあり、また、日台親善・交流を願う熱い気持ちがあります。私ども交流協会台北事務所といたしましても、このことをしっかりと胸に、日台関係をますます広く、深く、緊密なものとするべく全力を尽くします。

それでは、最後に、あらためて天皇陛下の誕生日を祝し、そして、来るべき新年における日台関係のさらなる発展並びに皆様方の御健康を祈念して、私のご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。